

2017年度第6回支部集会【中国支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会
共催：国立大学法人島根大学
後援：島根県教育委員会
開催日：2017年10月21日（土）
会場：島根大学松江キャンパス教育学部棟
参加者：43名（会員13名・一般30名）



ワークショップ

中国支部の支部集会が島根大学松江キャンパスで開催されました。台風の接近が懸念される中、島根県内や県外各地から多くの方々にご参加いただきました。今回の支部集会では、地域における日本語教育のニーズに即したものにすることと地域の日本語教育関係者のネットワークを構築することを目指して、ワークショップ、パネルディスカッション、参加者交流会が行われました。ワークショップは「教室と生活を結びつける授業づくり－課題遂行型の日本語指導－」と題して島根大学の佐藤智照先生に行っていただきました。教室外につながる授業の重要性やJFスタンダードについて佐藤先生からお話しいただいた後、グループになり、教室外につながる授業にするにはどうすればよいかについて、実際の教材にもとづいて考え、話し合いました。参加者のみなさんにとって、日頃の実践を見つめ直すとともに今後の教室活動を考える貴重な機会になったものと思われまます。



パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「地域における外国ルーツの子どもの支援について考える－島根県の現状と課題－」というテーマについて参加者のみなさんと一緒に考えました。公益財団法人しまね国際センターの仙田武司さんと島根県教育庁教育指導課の小澤正則さんから、地域国際化協会と教育行政のそれぞれの立場から、島根県における日本語教育および日本語指導が必要な外国人児童生徒の現状と課題をお話しいただきました。NPO法人エスペランサの堀西雅亮さんには島根県で外国人が急増している出雲市における取り組みについて具体的な事例を紹介していただきました。雲南市国際文化交流協会の李在鎮さんには韓国の多文化家族支援センターでの経験をもとに、韓国における外国人の受け入れと子どもの支援についてお話しいただきました。四人のパネリストのみなさんによる発表の後、参加者のみなさんと一緒に外国ルーツの子どもの支援に関する今後の課題や連携の在り方について議論を深めました。そこでは、島根県の現状をふまえた現実的な議論に加えて、韓国での取り組みもふまえた新たな支援の在り方を考えさせられる実り多い議論が行われました。

パネルディスカッション終了後には、参加者による交流会が行われました。普段はそれぞれの場所で日本語教育に携わっている参加者のみなさんが顔の見える関係になることができました。参加者の方からは、学会がこれまでよりも身近に感じられたという声も頂き、今後も地域に開かれた支部集会・支部活動を目指していきたいという思いを強くしました。

最後になりましたが、この度の支部集会の開催に際して会場を提供していただいた島根大学および運営に携わっていただいた関係者のみなさま、ワークショップとパネルディスカッションをご担当いただいた講師やパネリストのみなさま、そして台風接近の中、参加してくださったみなさまに心よりお礼申し上げます。（報告者：支部活動委員 永田良太・中園博美）